

夕暮れがぐっと早くなりました。現在会員登録数2,809人さま。  
次号は11月20日発行の予定です／

＋-----◇◆◇ 目次 ◇◆◇ -----＋

【1】お知らせ

【2】コラム

《1》この本読んだ？

《2》イーハトヴ周遊 宮沢賢治の童話を読破する

《3》読書活動ボランティアのためのワンポイント 98

《4》行って来ました！

【3】全国のイベント紹介

【4】プレゼント

＋-----＋

■-----■  
【1】お知らせ

● 「第35回 日産 童話と絵本のグランプリ」作品募集

アマチュア作家を対象とした創作童話と絵本のコンテストです。構成、時代などテーマは自由で、子どもを対象とした未発表の創作童話、創作絵本を募集しています。締め切りは10月31日（水）です。詳細は↓↓

[http://www.iiclo.or.jp/07\\_com-con/02\\_nissan/index.html](http://www.iiclo.or.jp/07_com-con/02_nissan/index.html)

● 研究紀要の原稿募集

当財団では「大阪国際児童文学振興財団 研究紀要」第32号の原稿を募集しています。お申し込み、詳細は↓↓

[http://www.iiclo.or.jp/06\\_res-pub/04\\_journal/boshu.html](http://www.iiclo.or.jp/06_res-pub/04_journal/boshu.html)

◇ 「大阪国際児童文学振興財団 研究紀要 第31号」を販売しています。

発行：当財団 2018年3月 A5判 128頁 1400円＋税

● 寄付金を募集しています

当財団の運営を応援いただける個人、法人の皆さまからのご寄付を募っています。寄付金は、当財団が行う講座・講演会など、さまざまな事業経費に充てさせていただきます。ぜひ、ご協力いただきますようお願いします。

お申し込み、詳細は → <http://www.iiclo.or.jp/donation.html>

● 当財団公式 Twitter → [https://twitter.com/IICLO\\_News](https://twitter.com/IICLO_News)

■-----■  
【2】コラム

\*\*\*\*\*  
《1》この本読んだ？ Yasuko's & Jun's Talk

\*\*\*\*\*  
『冒険は月曜の朝』 荒木せいお/作 新日本出版社 2018年9月 対象年

年齢：小学校高学年以上

あらすじ：小学6年生の風花は叔母さんである純子ねえねに赤ちゃんが産まれたことを祝福しようと、河口湖まで出かける。音楽会の代休の月曜日だったので、クラスメイトで鉄道に詳しい賛晴（さんせい）に付き合ってもらうことにする。その途中で、いっちゃんという人に出会ったり、電車の中に赤ちゃんのプレゼントを置き忘れてたりする。また、旅の途中で風花は賛晴が家族のことで悩んでいることを知る。

J：とても読みやすい作品だと思いました。搜索の非常線が張られるなかで、風花と賛晴が無事に純子ねえねのいる家までたどりつけるのか、またその後の展開を知りたいという気持ちで読み進めることができました。

Y：風花と賛晴の友情関係もすがすがしいと思いました。

J：友情とともに、風花は賛晴に淡い恋心を抱いていることも書かれています。

Y：風花が賛晴のことをあこがれの対象として、一歩離れて付き合うのではなく、あくまで一人の人間として付き合おうとしている点がいいなと感じました。

J：二人が旅の途中で出会ういっちゃんは、「あたしはおばさんじゃなくて、おじさん」と言ったり、韓国人の観光客の女性、ヘヨンさんと知り合いになってえびせんをもらったりするシーンもあり、様々な大人との出会いが印象的でした。

Y：風花の親友の安ちゃんも韓国語が話せるという設定になっており、性や民族を含めて「多様性」のよさを伝えているように思いました。

J：ちょっと物足りなかったのは、風花がシングルマザーでがんばっている純子ねえねを励ましたい、赤ちゃんにプレゼントをあげて喜ばせたいと思って旅をがんばったのに、結局、風花はおばあちゃんと赤ちゃんには会えたけれど、アルバイトに行っている純子ねえねに会えなかったこと。思いがけず叔母から突き放された言葉をかけられたことに対して、ここから風花の本当の物語が始まるように期待していたのですが、その書き込みがないことがやや消化不良でした。

Y：私にとってはそこがこの作品のおもしろいところでした。風花が自分の頭の中で「かわいそうな純子ねえね」像を勝手に作って突っ走ったところで、純子ねえねは大人としてたくましく人生を生きていることに気づく。子どもの頃から思い込みのはげしい私は風花のような経験を繰り返してきたので、子どもの思う大人の世界と実際の世界とのギャップを目の当たりにする風花を納得して読みました。

J：その風花が、純子ねえねに失望することもなく、「ねえねと舞ちゃん（=赤ちゃん）の味方」だと言う箇所がありますが、自分で旅を終えた納得感・充実感がそのように言わしめたのでしょうか。やや不自然にも感じました。

Y：そういう読み方もあると思いますが、賛晴の助けを借りながら一人で旅したことで、人がどう思おうと自分は自分の感じ方で生きるという風花の決意とも読めるかなと思いました。

\* 今回のゲストは当財団特別専門員の遠藤純さん（J）です。

\*\*\*\*\*

《2》イーハトヴ周遊 宮沢賢治の童話を読破する

\*\*\*\*\*

第38回「ひのきとひなげし」

## とどめ合うテキストの記憶

前々回、前回ととりあげた「ポラーノの広場」(当メルマガ NO.96、97)のその広場は、つめくさの灯す青白いあかりをたどっていくと、たどり着けるというのですが、宮沢賢治のそのほかの童話のなかに、つめくさが灯っていないか、さがしていくと、つぎの一節に行きあたります。「小さな二人」というのは、二つのつめくさの花のことです。

〈ある夜、そらが黒く、地面も黒く、剽悍な旅人が道を失ひ、野牛が淋しさに荒れ狂ふとき、小さな二人はあらん限りの力を出して、微かな青白い花の灯をともしたのでした。〉

これは、『新校本宮沢賢治全集』第8巻におさめられている「ひのきとひなげし」の初期形で、ひのきが「私は沢山の美しかった人たちを知ってゐます。」として語ることはです。精一杯にあかりを灯して、道に迷った旅人をたすけようとした、つめくさは、二茎の青蓮華、つまり、青いハスの花になって尊ばれたといえます。ハスは、極楽浄土に咲く花です。

初期形のこの部分は、推敲によって消えてしまうのですが、「ひのきとひなげし」では、自分たちが立派でないからスターになれない、つまらないとなげく、ひなげしに、悪魔が近づきます。悪魔は、にせ医者になって、あやしい美容術をほどこそうとするのです。それを追いはらったのが、ひなげしたちから「せだけ高くてばあかなひのき」といわれる、ひのきでした。

ひのきは、いいます。――「スターというのはな、本統は天井のお星さまのことなんだ。」「双子座様は双子座様のところにレオーノ様はレオーノ様のところに、ちゃんと定まった場所でめいめいのきまった光りようをなさる」  
原子朗著『定本宮沢賢治語彙辞典』(筑摩書房 2013年)は、「レオーノ」を賢治の創作星座名としています。レオーノは、もちろん、「ポラーノの広場」の語り手にして主人公のレオーノキューストを思い出させます。

「ひのきとひなげし」の初期形は1921～22年ごろ、最終形は1933年に成立しました。「ポラーノの広場」は、賢治の花巻農学校教諭の時代、1924年の作品です。テキスト同士が、おたがいのテキストの記憶をとどめているように思えます。(馬車別当)

(本文の引用は、筑摩書房版『宮沢賢治コレクション』1によりました。)

\*\*\*\*\*

### 《3》 読書活動ボランティアのためのワンポイント 98

\*\*\*\*\*

その11 さまざまなご質問にお答えします(16) ボランティア活動 学校図書館の選書

質問：学校から学校図書館に購入する資料を選んでほしいと言われました。

専任、専門の学校司書が配置されている学校では、学校司書が中心になって教員と協力して資料の選定を行います。そうでない学校では、先生たちがどんな資料を買えばいいか悩まれることも多くあります。

おはなし会などのボランティア活動をしている人たちは先生にとっては、子どもの本に詳しい人で、選定を依頼する気持ちは理解できます。

しかしながら、学校図書館は、読書センターの他に学習センター、情報センターの機能も持っており、全体の蔵書構成を考えながら、全ての機能を果たすための資料を選ぶことにボランティアが責任を持つのは不可能だと思われる。

もちろん、知っている範囲で情報提供をするのはいいとは思いますが、購入を決めるのはあくまでも先生であることを確認しておく必要があると思います。それは、もし、「ボランティア＝学校のスタッフ以外」が選んだ本を言われた通りに買うことをよしとするならば、別の組織から言われた本を買ったり買わなかったりすることを認めることになり、図書館の自由に関する宣言の中の「図書館は、権力の介入または社会的圧力に左右されることなく、自らの責任にもとづき、図書館間の相互協力をふくむ図書館の総力をあげて、収集した資料と整備された施設を国民の利用に供するものである。」という考えを放棄し、検閲を認めることになりかねません。

忙しい先生を助けたい、自分の持っている知識を少しでも役立てたいという気持ちがあっても、選書は図書館の根幹にかかわる問題であることを理解しておかなければいけないと思います。

\* 次号は「その 11 さまざまなご質問にお答えします (17)」の予定です。  
ぜひ、ご質問やご意見をお待ちしております。(Y)

\*\*\*\*\*

《 4 》 行って来ました！

\*\*\*\*\*

西宮市立大谷記念美術館で12月9日まで開催されている「昔なつかし・昭和レトロ キャラクターデザインの先駆者 グラフィックデザイナー土方重巳の世界」展に行ってきました。土方重巳(1915~1986)は、NHKの人形劇のデザインや、象のキャラクター「サトちゃん」などが有名な画家、デザイナーです。この展覧会では、序章「若き日の作品」、第1章「映画・文化映画・舞台」、第2章「雑誌・絵本・人形絵本・グループ展」、第3章「企業広告・CMキャラクター」に分けて、原画、ポスター、パンフレット、映像、絵本、人形などが展示され、土方重巳の多彩な仕事が紹介されています。

第1章では、「山びこ学校」や「コッペリア」などの映画や舞台のポスターが展示されています。作品ごとにあらすじがあって、場面を想像しながら楽しめます。特に、バレエや演劇のポスターに描かれた人物の衣装は美しく、舞台の魅力を伝えていると思いました。人形劇団プークの「青い鳥」や「ブレーメンの音楽隊」などのポスターは、動きのある絵が見る人を物語世界へ誘い込みます。

第2章では、子どもに向けた仕事が紹介されています。その中には「婦人公論」に連載されたいぬいとみこ作「北極グマのムーシカ・ミーシカ」の挿絵の原画がありました。また、飯沢匡原作「ブーフーウー」の原画を見て、子どもの頃、オオカミのお尻にサボテンのトゲが刺さって「痛そう」と感じたことを思い出しました。

トッパンの人形絵本のコーナーは、『おやゆびひめ』などの絵本とともに人形デザインの下絵が展示されていきました。松本育子さん（刈谷市美術館館長代理）の講演によると、来年、刈谷市でこの展覧会が開催される時には、撮影に使用された人形も展示される予定だということです。（K）

■ ----- ■  
【3】全国のイベント紹介

■ ----- ■  
●「多文化にふれる えほんのひろば 2018」

日本語と外国語の絵本約 750 冊が自由に手にとって楽しめます。外国語の絵本は、外国人スタッフにいつでも読んでもらえます。

日 時：11月17日（土）午前11時～午後4時

11月18日（日）午前11時～午後3時30分

場 所：大阪市立中央図書館 5階（大阪市西区北堀江）

当日プログラム：

17日午後2時～「多言語おはなし会」

18日午後1時30分～ワークショップ「おはなしと音楽で西アフリカを感じてみよう」 講師：ジョゼフ・ンコシ（西アフリカの昔話を語るグループ「おはなしの木」）

参加費：無料 申込み：不要

主 催：NPO法人 おおさかこども多文化センター

●ブラティスラヴァ世界絵本原画展 絵本セミナー「BIBと絵本制作の舞台裏」

日 時：11月18日（日）午後1時～午後4時30分

会 場：奈良県立美術館 レクチャールーム（奈良市登大路町）

プログラム：

イントロダクション「BIBと日本の絵本」

講師：広松由希子（絵本評論家、BIB2017国際審査委員長）

講演「わたしの絵本創作過程」

講師：こしだミカ（絵本作家）

講演「これまでに見たことのない絵本を創るために」

講師：筒井大介（野分編集室）

対談「絵本の現在・絵本の未来」

講師：こしだミカ、筒井大介 聞き手：広松由希子

参加費：有料 定員：80人（当日先着順）

主 催：絵本学会、奈良県立美術館

◇「ブラティスラヴァ世界絵本原画展 BIBで出会う絵本のいま」は、奈良県立美術館で10月6日から12月2日まで開催しています。

上記イベントの詳細およびその他の講座・講演会、展示会、公募情報については、こちらからご覧ください。↓↓

[http://www.iiclo.or.jp/03\\_event/04\\_other/index.html](http://www.iiclo.or.jp/03_event/04_other/index.html)

※イベント情報をお送りください。当財団HPに掲載させていただきます／

■ ----- ■  
【4】プレゼント

■ ----- ■  
今号のコラム《1》「この本読んだ？」で紹介しました『冒険は月曜の朝』を1名の方にプレゼントします。ご希望の方は、メールで件名「メルマガ N0.98

プレゼント希望」とし、(1)お名前 (2)郵便番号・住所 (3)電話番号 (4)メールアドレス、よろしければ (5)このメルマガのご感想をお書きのうえ office@iiclo.or.jp にお送りください。

締切は11月12日(月)、当選発表は発送をもって代えさせていただきます／

編 | 集 | 長 | の | つ | ぶ | や | き |

—|—|—|—|—|—|—|—|—|—|

秋の深まりにつれて美味しいものが増えてきます。お刺身のつまにモミジが添えられているだけでいただく前から及第点。そして、それぞれが注文した各地の銘酒を皆で回し飲みするのも楽しみのひとつ。つつい飲み過ぎて帰りの電車を乗り越すことのないよう文庫本も手放せません。などと、あわせて読書の秋も満喫する今日この頃です。(TA)

-----

みなさまのご意見・ご感想をお聞かせください。下記メールアドレスまでお願いします。

原則として返信はいたしませんのでご了承ください。

●このメールマガジンは、ご登録いただきました皆様に配信しています。

●配信の登録・解除・変更は、

[http://www.iiclo.or.jp/m1\\_magazine/index.html](http://www.iiclo.or.jp/m1_magazine/index.html) パソコンからどうぞ

●このメールの送信アドレスは配信専用です。

●記事の無断転載はご遠慮ください。

-----

発行：一般財団法人 大阪国際児童文学振興財団 <http://www.iiclo.or.jp/>

〒577-0011 大阪府東大阪市荒本北 1-2-1 大阪府立中央図書館内

TEL：06-6744-0581 FAX：06-6744-0582 E-mail：office@iiclo.or.jp

-----

-----